



一人ひとりが輝く学びを求めて

～学びの多様化に期待すること～



山形県中学校長会

副会長 土井 浩 貴（鶴岡市立鶴岡第五中学校）

第7次山形県教育振興計画の初年度、「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」を目標に、新たな挑戦が始まりました。これまでの教育は、子どもたちが一律のカリキュラム、同じペースで進むことが当たり前、と考えてきた傾向にあります。しかし、時代は変わり、子どもたちの個性やニーズが多様化し、それに呼応するかのように価値観も多様化しています。学びの多様化は、まさにこの変化に対応し、すべての子どもが可能性を最大限に開花させるための羅針盤になるのではと期待しているところです。

学びの多様化を象徴する例として、まず「学びの多様化学校」が挙げられます。本県では、今年度、上山市立西郷小・中学校（通称：上山きらり学園）が開校しました。不登校経験のある子どもや従来の学校教育に馴染めない子どもが、それぞれのペースで学び、自己肯定感を育みながら、自立度を高めようとする場です。「子どものよさや可能性を引き出す、新たなスタイルの学校をつくる」との学校経営方針のもと、子どもの実態に応じた教育課程を編成し、一人ひとりの主体性を大切に授業、地域素材を生かした体験的な学びが重視された場です。柔らかなBGM、ゆったりと時が流れる、心地よい空間です。

通常学級に在籍しながら、個別の支援を受けることができる「通級指導教室」も大切な場の1つです。今年度4月より本校にも開設され、専任教師が中学校ブロック内の小・中4校を兼務・巡回する、新しい形態を採っています。小・中併せて20名の子どもたちが、それぞれの特性やニーズに合わせた支援を受け、学習方法の習得、社会性やコミュニケーション能力を高める学習に取り組んでいます。小・中のつなぎをスムーズにできる環境にもなりうると期待しているところです。

また、「夜間中学」は、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人、様々な事情で十分な教育を受けることのできないまま中学校を卒業した人などに、学ぶ機会を提供する場です。年齢や国籍に関わらず、誰もが学びたい時に学ぶことができる、まさに「学びのセーフティネット」としての役割を果たしていくことが期待されています。本県でも設置に向けた検討が進められており、今後の動向が気になるところです。

さらに、「日本語指導」も、グローバル化が進む現代において、ますます重要な支援の場になることでしょう。日本語の習得だけでなく、異文化への理解を深め、多様な価値観を尊重する姿勢を育むことが求められています。

学びの多様化への対応を進める上で、現在取組まれている「個別最適な学びの実現」をさらに進めていくことが必要です。すべての子どもが、それぞれのペースで、それぞれの興味・関心に基づいて学ぶことができるよう、柔軟なカリキュラムや教材・指導法の開発が急がれます。そして、その学びを支える「教員の専門性の向上」は必須です。これからは、これまでの教育観を大きく転換することが求められる、そんな時代になるかもしれません。また、これまで同様に「子どもが関わる関係機関相互の連携強化」や「社会全体での学びの多様化への理解促進」等が必要です。

学びの多様化は、すべての子どもが自分の可能性を信じ、未来に向かって力強く歩んでいくための原動力となることでしょう。多様な価値観を持つ人々が共生し、互いを尊重し、協力し合うことで、関わるすべての人のウェルビーイングにつながる社会が実現するものと期待しています。子どもたちはもちろん、支える先生方も輝くことのできる学びの環境を整えることができるよう、会員皆で研修と情報交換を深めて参りましょう。

令和7年度 第75回 東北地区中学校長会研究協議会 山形大会

大会主題「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」

ご協力ありがとうございました

第75回東北地区中学校長会研究協議会山形大会が、令和7年7月3日（木）、4日（金）の2日間、山形市のやまぎん県民ホール（第1日目）、ホテルメトロポリタン山形・山形国際ホテル（第2日目）にて開催された。東北六県より約670名が参加し、日本・東北の中学校教育の「今」を改めて捉え、東北の中学校教育のこれからを見据える有意義な機会となった。

【第1日目 7月3日（木）】

開会式では、細谷直樹大会会長があいさつの中で、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代と言われる現代において、「東北は一つ」という思いのもと、「東北各県の校長が一堂に介し、他県の取組や状況に直接触れ、意見交換ができるこの協議会を、視野を広げ、新たな考えを獲得する有意義な場としたい」と、開催県としての思いを述べた。続いて、須貝英彦山形県教育委員会教育長、佐藤孝弘市長、青海正全日本中学校長会会長よりご祝辞をいただいた。続く、理事会報告、宣言・決議の後、青海会長より全日中報告をいただき、部活動の地域展開や学習指導要領の改訂等、最新の国の動向について理解を深めた。記念講演では、元バスケットボール日本代表で、現在WJBLトヨタ自動車アンテロープスHCの大神雄子氏より「世界に挑戦して学んだこと～日本から見た世界、世界から見た日本～」と題してお話しいただいた。山形から世界に活躍の場を広げ挑戦し続ける姿から、活力をいただく講演であった。

2日目が分科会ごとの解散となるため、1日目の最後に閉会行事が行われた。細谷大会会長が初日の成果と大会関係者への謝辞を述べ、次期開催県を代表して、大山裕秋田県中学校長会会長からご挨拶をいただいた。

【第2日目 7月4日（金）】

テーマ毎に3つ分科会に分かれ、それぞれ2つの実践発表に基づいて協議が行われた。山形県からは、『主体的・対話的で深い学び』の実現』をテーマとした第1分科会において、朝日町立朝日中学校の横井真人校長が、「生徒の自己有用感の高まりを目指し、地域を創る『総合的な学習の時間』の実践』について発表し、意見交換が行われた。

第76回東北地区中学校長会研究協議会秋田大会（案）について

- 1 期日 令和8年7月2日（木）～3日（金）
- 2 会場 あきた芸術劇場ミルハス
- 3 主催 東北地区中学校長会 秋田県中学校長会
- 4 内容 〈第1日目〉○開会式 ○理事報告 ○宣言・決議 ○文部科学省説明
〈第2日目〉○研究協議会（分科会）○記念講演 ○閉会式

第2回理事会議報告

今年度の第2回理事会が、去る11月21日（金）山形市総合学習センター多目的研修室において開催され、これまでの活動等の報告や今後に向けての話し合いが行われた。情報交換では、「学校の働き方改革の進捗状況とその課題」について、各地区の状況が報告され、今後に向けた話し合いがなされた。

I 令和8年度の研究担当地区の確認

研究要項会誌掲載年度	研究担当地区	研究発表年度
令和7年度	学校経営Cブロック（東村山地区担当） 生徒指導Dブロック（北村山地区担当） 学習指導Eブロック（飽海地区担当）	令和8年度

II 第80回山形県中学校長会研究協議会

- 1 期日 令和8年6月4日（木）
- 2 会場 ヒルズサンピア山形
- 3 日程（案）

13:00		13:50		14:30	
受付	理事会〈月山〉 分科会運営委員会〈朝日〉		開会行事 全体会〈蔵王〉	休憩・準備	分科会 研究発表 ① 学校経営〈月山〉 ② 生徒指導〈朝日〉 ③ 学習指導〈最上〉 グループ協議 ・発表について ・情報交換
	来賓受付 会員受付				
12:50	13:20	13:40	14:10		16:30

4 内容

- (1) 全体会 研究主題・趣旨説明
- (2) 分科会
 - ・第1分科会「学校経営」東村山地区
 - ・第2分科会「生徒指導」北村山地区
 - ・第3分科会「学習指導」飽海地区

III 令和7年度 教育課程編成・実施に関する調査結果

本調査は、特色ある教育課程の編成に活かされることを目的とし、毎年、研究推進委員会が実施・集計・報告しているものである。第2回理事会では、今年度の調査結果が報告された。また、次年度の教育課程の検討に活かすことができるよう、11月中に研究推進委員を通して各学校に送信する旨が伝えられた。なお、本調査の結果は、年度末に発行される「会誌」にも掲載する予定である。

令和7年度 全日中第2回理事会・研究協議会報告 (10月22日)**1 会長挨拶****2 報告事項**

- (1) 常任理事会報告
- (2) 各部・各委員会より報告(会報79号)
- (3) 令和7年度一般会計収支計算報告書、会員数・会費収納状況、基金収納状況
- (4) 各地区中学校長会活動状況報告(全地区・会報79号)
- (5) 第76回全日本中学校長会研究協議会 香川大会 文部科学省説明依頼事項
- (6) 令和8年度 文教関係立法・予算措置等要望及び陳情活動
- (7) 令和7年度 中学校教育に関する調査まとめ
- (8) 「令和7年度 各都道府県・政令指定都市人事委員会の勧告概要」及び「令和8年度 給与等に関する要望の概要」調査

3 協議事項

- (1) 第76回 全日本中学校長会研究協議会香川大会「宣言・決議(案)」
- (2) 第77回 全日本中学校長会研究協議会長野大会「実施要項(案)」
- (3) 第78回 全日本中学校長会研究協議会東京大会「実施要項(案)」
- (4) 総会関係等について
 - ① 令和8年度「宣言・決議(案)」 「全日中活動方針(案)」
 - ② 令和8年度 全日本中学校長会一般会計予算(第一次案)
- (5) 第78回 全日本中学校長会研究協議会東京大会研究協議会主題及び分科会研究題(案)
- (6) 「中学校教育80年」誌について
- (7) 令和9年度用 文教関係立法・予算措置等要望調査
- (8) 令和8年度 全日本中学校長会関係会合日程、年間行事予定
- (9) 全日中新教育ビジョンの改訂について

4 連絡

- (1) 令和8年度 機関紙「中学校」月別主題と副題材・執筆依頼予定(案)について
 - ・山形県：6月「特集学校経営」(北村山)、11月「校長会だより」(編集担当幹事)
 - 令和8年2月「わたしの納戸」(最上)
- (2) 全日中週案について(週案のおすすめ)

5 情報交換「防災・安全教育に関する取組と課題～東日本大震災や能登半島地震の教訓を活かして～」**【各県の情報から】**

- ・全ての学校において「県学校防災管理マニュアル(R3.3改定)」を参考に、各地域や学校の実状に応じた「学校防災計画」を作成し、毎年見直しを実施している。
- ・地震、津波を想定した「緊急地震速報」に対応した避難訓練を、昼休みや放課後等を実施している。
- ・保護者への連絡、引き渡し訓練や自治体、地域との合同避難訓練を実施している。
- ・防災士等を講師にしての講演の実施や教職員を対象者とした避難所開設研修及び開設訓練を実施。
- ・豪雨・洪水・土砂災害に加え、熱中症対策や雷・ゲリラ豪雨、さらには獣被害(熊)への対応・対策も必要になってきている。

□課題

- ・生徒が能動的に行動できる防災教育や訓練の在り方
- ・避難所開設時の教職員の関りや教育課程実施について
- ・増加する危機等に対する対応